

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成29年11月24日 (2017.11.24)

【公開番号】特開2015-88194(P2015-88194A)

【公開日】平成27年5月7日 (2015.5.7)

【年通号数】公開・登録公報2015-030

【出願番号】特願2014-223259(P2014-223259)

【国際特許分類】

G 0 6 Q 50/32 (2012.01)

【F I】

G 0 6 Q 50/32 1 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成29年10月12日 (2017.10.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

図 3 A ~ 3 F に、好適な実施形態による、パフォーマンスデータの可視化及び分析を提供するための例示的なスクリーンショット（表示画面例）を示す。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 7】

図 3 E を参照すれば、ズーム画面 3 0 0 E を提示することができる。一旦、問題の原因となりやすい領域を識別すると、システムは、さらに掘り下げて、その領域内の副要素を識別して、問題となる数値指標またはパフォーマンス指標に対するそれらのパフォーマンスを調査する能力を提供することができる。このことを行う際に、システムはズーム画面 3 0 E を表示することができ、この画面は、各副要素のパフォーマンスを、基になる潜在的問題の大きさを視覚的に、直接的に強調する方法で（例えば、面積で）重み付けした視覚的表現とすることができる。この重み付け係数、例えば、各要素に関連する面積を決定するアスペクト比を変更して、特定の必要性に適合させることができる。この画面 3 0 0 E より、ユーザは、迅速な見識を導出して、自分の注意をパフォーマンスが最悪の領域に集中させることができる。ここでも、このことは、ユーザが、調査する必要のある複数の問題の存在下で、自分の作業を優先順位付けする方法となり得る。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 8】

図 3 F を参照すれば、根本原因分析（R C A : root cause analysis）画面 3 0 0 F を提示することができる。さらに調査する領域を選択する際に、システムは概要チャートを

提供することができる。この画面 3 0 0 F は、多数のパフォーマンス数値指標、及び時間と共に変化する他の関係する情報を含むことができ、これらの情報は、一緒に観測すると、主要で最も確率の高い問題の根本原因に集中した十分な見識を提供することができる。特に、画面 3 0 0 F は、失効したパフォーマンス指標に関連する失効原因についての詳細を提供することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 1】

図 4 A ~ 4 F を参照すれば、追加的なカスタム画面 4 0 0 A ~ 4 0 0 F を提示することができる。G U I (graphical user interface: グラフィカル・ユーザ・インタフェース) が、他の論理的で、直観的で、フレキシブルな方法での、データの調査を可能にすることができることは明らかである。例えば、ユーザは、調査中の態様または問題に関する有益な見識を抽出することができ、そして、広範囲の寸法の集合から選定することによって、自分用にカスタマイズした画面を作成することができる。寸法を、その値のうちの 1 つを選択することによって選択すると、その寸法がロックされ、残りの寸法は、地図を含めて、選択されたデータの部分集合を反映するように更新することができる。地図上のクラスタのうちの 1 つを選択する際にも、同じことが発生する。他の種々のカスタム化、可視化、及び変形を提供することもできる。